

人によるんじゃないですか？

1. ラーメン屋さん、運ばれてきたラーメンを見て、「おばちゃん、指はいつてるで」・・・うん、うちのはそんなに熱くないから・・・もうなれたから・・・そんな問題と違うやろ。・・・これがきれいなおねえちゃんやったら黙ってるやろな。
2. 発毛剤。ちょっと頭髪が寂しくなった医者に向かって、当時プロパー（製薬会社の宣伝員）と呼んだ製薬会社のMRさん。「先生、これ、例の薬です。今度ウチから発売になります。」・・・周囲は凍りついたそうさ。あとでこの医者が「僕かてびっくりしたよ。気にしてるのになあ。」・・・いやがらせではなく、単なる親切心からだったらしい。
3. ある番組で、裏口入学の話。「神様」と呼ばれている人が来て、「学力弱者の救済だ！」・・・ものすごい説得力。当の大学教授がいう、印刷所ひとつとっても、毎年変える、出入り口も1ヶ所、印刷枚数と実数のつき合わせ、必ず複数で鍵をかけて。・・・もう亡くなられたが、黒田清さんが、「やっぱりあれやな、そんなけするゆうのんは、なんかあんねんな」（爆笑）・・・しかも教授が真顔で「いやそうなんだ。ここまですているのに、なぜ漏れるんだ！」と真剣に悩んだことがある。

蛇の道は蛇。
4. 文豪谷崎潤一郎の原稿をとるのは至難の業と言われた。ある人が「オレにしかとれない。」と豪語する。そのコツは何か？簡単なことで、ただ只管、臆面もなく、褒めて褒めて褒めちぎることだそうさ。
5. もう売れていないが当時人気絶頂のお笑い芸人。彼女の父親に向かって、「僕は貴方のお嬢さんの幸せを本気で、一生懸命考えています。」・・・「そうかい。じゃ、すぐに別れてくれ！」
6. 醤油発祥の地は和歌山県湯浅である。国道沿いに「角長」と

いう店がポツンと残っていた。ある日ラジオの小澤昭一の番組で「手造り醤油」をとりあげたところ、爆発的な人気になった。・・・落ち目になっていた丸金とかかつての醤油メーカーが競って、丸大豆醤油とか純国産大豆醸造醤油などがとぶような勢いで売れた。TVなどで角長の社長が「〇代続いた老舗」などという。では角長の店主は、何百年続いた麴もそのまま残っている工場を残すため、今日のブームを予見して店を畳むことなく頑張ったのか?・・・否である。気の利いた人たちが早くに見切りをつけて商売替えで生き残ろうとしたのに、乗り損ねただけなのではないか。

7. かつて TV 番組といえば、暇もてあました主婦を雛壇にならべて、ふたこと目には「奥様」「奥様方」というのが人気があったらしい。これを笑った最後の幫間がいて、「奥様というのは、家では上女中、下女中がいて、外出時には下男がお供する方を言う。」・・・品のない者同士で褒めあうな、と。
8. 一瞬の錯覚 1910年と1986年のハレー彗星を見た人がいる、と聞いて。慌て者が、「エーッ、〇〇さんは140歳ですかあ?」
9. 美醜をいうのではない。ある婦長、脂ぎっていて眼がぎらついていて・・・なんという人相の悪さだろう。・・・どういう精神状態で生活したらあんな醜怪な・醜悪な相になれるのだろうか?権力欲・金銭欲にとりつかれるとああなるという見本。婦長に限らない、政治家、医者、詐欺目的の宗教家。
10. 森鷗外は明治の文豪と呼ばれた。医師でもあり、軍医である。だから「高瀬舟」などという安楽死をテーマに小説を書いた。医師としての働きについては、脚気の原因が白米にある、ことを否定し、細菌感染説をとっていた。これは、東大閥の考え方であり、日露戦争の際に陸軍の戦病者の6割が脚気であったという。・・・しかしこれをもって鷗外を批判するつもりはない。現在の知識で過去を断罪するのは間違っている。

さて、森鷗外はものを知らないというのが定説で、その理由は以下のことによる。(高島俊男さんによる。)

中国の苗字は、基本的には一文字である。張、毛、李、杜、劉などなど。まれに二文字の姓があり、複姓という。有名なところでは、諸葛(孔明)とか司馬(遷)などである。これに関して、鷗外は、「寒山拾得」(カンザンジツク)の中で、閻丘胤(リョキウイン)のことを、「閻は、閻は・・・」と書いた。ところがこの姓は、「閻丘」という複姓であったのである。ここから「鷗外はものを知らない」ことになった。・・・しかし、現代に生きているわれわれからみれば、はるかに「物知り」である。

11. 吉兆という料亭は大阪高麗橋に本店がある。(最近、ややこしいことで有名になってしまったが、あれは支店である。)夕食が25年前で1人5万円であった。無論一見さんは敷居もまたげない。10年修業しても一晩で逃げ出しても、「元吉兆の板前」で通る。仲居さんも洗練されている。いつ誰が誰と一緒に来たか全部記録に残っているという。嫌いな食べ物を出さないようにするためである。だから、参加者全員の名前を確認する。

ある会社の話。専務、部長、課長、係長の4人が吉兆に行き順に上がる。最後に係長がついていこうとしたところ、仲居さんが「あの、運転手さんはこちらの控え室で・・・」係長の怒ること。・・・あとで聞いてみんなで大笑いした。

12. 主婦連のおばちゃんが金切り声を出す。「総理！ あなたは大根1本がいくらするのかご存知なんですか！？」総理大臣も黙殺すればいいのに「知りません」。

立川談志が笑う。総理大臣は大根1本の値段なんか知っている必要がない。もっと大きなことを考えるものだ。「この大根の値段はいくらだった？」などとカミサンに聞いて、じゃあ向こうの八百屋の方がやすいじゃないか！などと言うのか！ バカな質問をするんじゃない。

世の中にはバカがいるもので、「夫婦の間には会話・対話が必要ではない」とだれかから吹き込まれたのだろう。とびっきりの馬鹿なのだが、上記、総理の話のようなことをした。つまり、この男は、近所のスーパーから八百屋まですべての大根の値段を調べて、奥さんが買ってきた大根の値段がどこそこに比べると高い、などと言い出したのである。もちろん、会話や対話でないことは明白なのだが、馬鹿にはわからない。奥さんは憔悴してしまって、結局離婚した。

13. 知らない！

若い医者が臀部発赤と書くところ、ニクヅキに殿と書いていて、こいつゴジャばかり書いとおる。看護婦が「そういえば私らにデンプはどう書くのやったかな？と聞いてた。」オレがいう、「知らんヤツが知らんヤツに聞く」というと当の看護婦も笑う。

山本夏彦さんは30年も前にこれを指摘しておられる。・・・知らないことを聞かれて知らないと答えるのは、やさしいようでそうではない。知らないと答えるのは、実はむずかしいのである。・・・いくら禁じても新入社員は新入社員に聞きたがる。ことに女は女に聞こうとする。はなはだしいのは、自分より劣ったもの、知らないものに聞いて、聞いたことにしようとする。それを改めさせるのは困難で・・・

(新しく来た医者や看護婦に多いのであるが、)知らない者が知らないものに尋ねて、めでたく知らない(無知)のはひとり私だけではない。よかった、よかったと安心するだけの話である云々。・・・最近**は知らないことを恥じる気のある人も減ってしまった。**

本文のほとんどは1999年4月に書いたものである。
一部最近の話として追加した。 2010.03.03.